



本町5丁目は 豪雨 に注意!

今年の夏の九州や熱海の大雨被害は記憶に新しいところです。温暖化による大型台風の発生やゲリラ豪雨に加えて、地面がコンクリートに覆われ雨水が地下にしみこまずに川へ流れ込むことにより、急激に川の水位が上昇します。

災害情報に注意し、避難が必要な場合は、高台や水害時の避難所(見開き頁参照、開設状況は区のホームページや公式ツイッター等で確認)へ早めに避難しましょう。危険が差し迫り避難所まで行けない場合は、建物内の上階へ垂直避難しましょう。

洪水を防ぐための施設 = 環七地下調整池

かつて神田川は台風や集中豪雨で氾濫し、浸水被害が出たことが何度もありました。環状七号線の地下の巨大な貯水池に水を貯めて洪水を防ぐための施設の整備事業は1988(昭和63)年から建設がすすめられ、1997(平成9)年から水の取り込みを開始。2008(平成20)年に電気・設備等を含めた全施設が完成。最大54万トンの水を貯められるようになりました。

1993(平成5)年の台風11号では3000戸以上の浸水被害、2004(平成16)年の台風22号では、浸水家屋は46戸と調整池が効果を発揮し、被害は激減しています。しかし、54万トンを貯められる調整池も2013(平成25)年9月の台風18号の時に満水になったことがあります。調整池があるからと安心せずに、災害情報に注意しましょう。

*環七地下調節池は200段の階段(またはエレベーター)を降りて見学ができますが、コロナ禍の現在は中止となっています。



水害ハザードマップ 鍋横・桃園

<土のうの配備>

中野区では、台風や集中豪雨に備えて、土のうを配備しています。浸水が予想される場合は、必要個数を自由に使えます。

- 区立二中東側水防倉庫
- 千代田公園土のうボックス
- ふらっとなかの簡易倉庫
- なかしん広場水防倉庫



土のう配備

初期消火の重要性

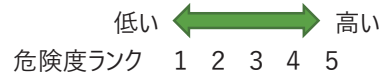
中野区の被害想定では火災による消失棟数は7,222棟、その出火元は24棟となっています。火災を初期の段階で消火すれば被害を抑えることができます。初期消火は重要ですが、自分の命を守ることを最優先に行動しましょう。日頃から大火災が発生した時の避難ルートも確認しておきましょう。



鍋横地域は 火災危険度が高い!

	建物倒壊危険度ランク	火災危険度ランク	災害時活動危険度	総合危険度ランク
中央3丁目	2	3	3	3
中央4丁目	3	4	3	4
中央5丁目	2	3	3	3
本町4丁目	2	3	3	3
本町5丁目	2	3	2	3
本町6丁目	3	4	3	4

2018(平成30)年2月公表)東京都都市整備局

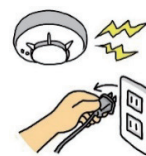


震災時は 電気火災 に注意!

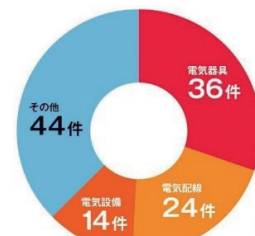
平時の住宅火災の原因は、ストーブ、たばこ、電気器具、こんろが主な原因ですが、震災時における火災の多くは電気火災です。震災に伴う停電が復旧した時に、揺れにより電気器具の電熱部分に可燃物が接触している状態で通電が再開されることで火災が発生します。

普段使用しない電気器具は、

- * 差込みプラグをコンセントから抜いておく。
- * 発災後避難する際にはブレーカーを落とす(感震ブレーカー(分電盤型)などの防災機器の設置が有効)



中野区防災・気象情報



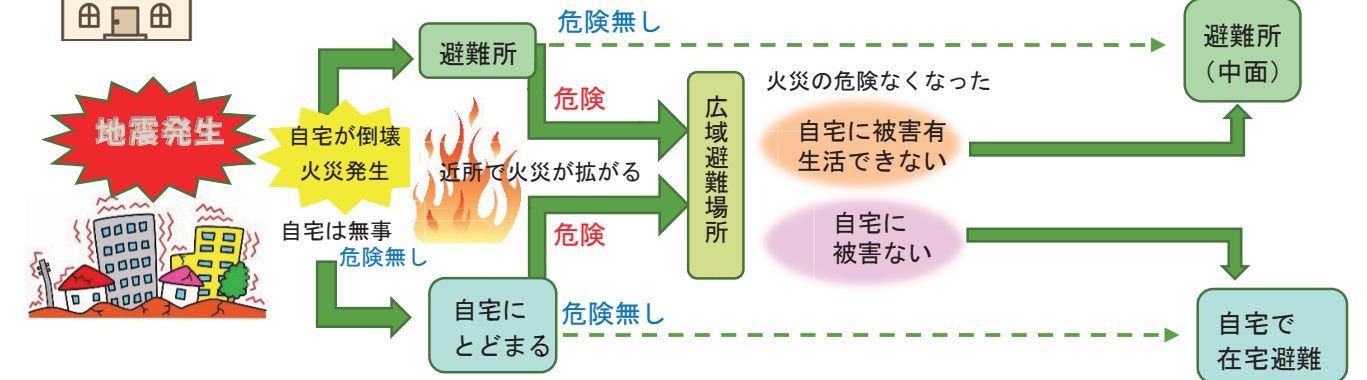
「本震」による火災発生状況(東日本大震災) 日本火災学会「2011年東日本大震災火災等調査報告書」



中野区民防災ハンドブック



避難所に行くべきか?



- 避難が必要なのは
1. 家屋の倒壊や火災の危険が迫った時
 2. 区や警察から避難指示が出された時

在宅避難 とは?

家族に怪我がなく、住居にも危険な損傷がなければ、自宅で避難生活を送る「在宅避難」をおすすめします。新型コロナウイルス感染症の流行している状況や、乳幼児や高齢者、ペットのいる家庭では、住み慣れた家で暮らすことでストレスも減り、心身の健康を保ちやすいというメリットがあります。

また、安全な場所にいる親戚や知人宅への避難も検討してみましょう。



避難所は、その避難所に避難する対象となっている地域の町会や自主防災組織が運営します。鍋横地域では、「中野本郷小学校」「第二中学校」「新渡戸文化学園」のそれぞれに避難所運営会議があり、検討を重ねています。災害時に避難所へ避難するあなたも、決してお客様ではありません。

地元をよく知っている人が運営の主体となり、施設職員や教員、行政職員はそれぞれの立場から運営を支援するという状態を作れていれば、それぞれが自分の得意な部分で復旧や支援に取り組むことができるようになります。

ペットは...?



自宅での生活が困難になった場合、ペットはどうしたらいいでしょう?

「中野区地域防災計画」では、ペット(小動物)の同行避難を受け入れ、校庭等の一部スペースをペットの避難所として確保することを定めています。



中野区 HP ペットの災害対策

ペットの同行避難には次のルールがあります。

1. 受け入れ場所は人と動線を分けた屋外等
2. 小動物(犬、猫、鳥等)のみ
3. ケージの中に入れる
4. ペットフード、ケージ、トイレ用品等は飼い主が用意

マンションは 在宅避難 が基本です!

中野区内の居住世帯の78%が集合住宅です。マンションは大地震が発生しても倒壊の危険が少ないので、在宅避難が基本です。しかし、エレベーターが使えなくなることがあるので、各家庭、管理組合で話し合い、以下のような備えをしておきましょう。



中野区マンション防災ハンドブック

1. 飲み水、食料は一週間分の備蓄を!
2. トイレは流さないで!(排水管が壊れると下水が漏れ出す)
3. 家具の転倒防止
4. 非常階段や避難はしごの場所確認
5. 各階の消火器、屋内消火栓の位置確認

ママたちの防災

鍋横区民活動センター運営委員会では、東日本大震災の翌年2012年から乳幼児親子を対象にした「ママたちの防災」に取り組んでいます。

中野区防災課や消防署の方から防災の基礎知識を、中野区赤十字奉仕団鍋横分団の方から救急法を、栄養士さんから「非常食バイキング」と題して自宅にある食材を工夫して調理する方法を、学んでいます。

「ママたちの防災ポケットマニュアル」は無料で配布しています。ご希望の方は鍋横区民活動センター運営委員会までご連絡ください。

- ペットフード及び水(最低3日できれば7日分)
- おやつ(ペットのストレス解消に)
- ペットの食器(フード用と水用)
- 首輪と伸びないリード(首輪には迷子札をつける)
- トイレ用品(トイレシート、猫砂など)
- ケージ、キャリーバッグ
- 常備薬、療法食

